

計測・制御システム

Measurement and Control Systems

巻頭言

進化する計測・制御システム

Evolving Measurement and Control Systems

昨年来の景気悪化や、新型インフルエンザ (H1N1) のパンデミック (世界的流行) への移行状況は、物理的にも社会構造的にもグローバル化が進み、世界全体が相似形の集合体に移行しつつあることを示しています。産業界、特に計測・制御分野でも、グローバル化を目的として規格・標準化が推進されています。規格化も、EMC (Electromagnetic Compatibility: 電磁環境適合性)、防爆、通信などの機器規格から、現在ではシステム全体の機能安全に基づくプロセスの安全確保や、環境調和、省力化などを推進するための規格へと取組みが進化しています。

東芝が開発したTC-net_{TM} 100の基本通信技術仕様 TCnetが、Real-Time Ethernetの日本案の一つとしてIEC (国際電気標準会議) に提案され、そのProfileがIEC 61784-2 CPF 11 (Communication Profile Family 11) として、また、Protocol and ServiceがIEC 61158 Type1として規格化されました。これからも、国際社会での標準化に積極的に貢献していきます。

一方、1975年に業界の先駆けとして分散形制御システムTOSDIC_{TM}を発表した後、高速シリアル伝送による入出力の自在な分散設置、エンジニアリングの効率化、信頼と安心設計によるライフサイクルコストの削減、旧機種との接続性と技術資産の継承性、及び環境調和を図る技術をユニファイドコントローラ_{NV} シリーズで実現しています。更に、計測・制御システムのプラットフォームとして、産業用コンピュータやフィールド計測器によりシステムインテグレーションの高度化を推進しています。今後もロバスト性、長期信頼性、及び資産の継承性を追求し、システムの高品質化を目指します。また、オープン化のなかで、信頼性を確保した新技術を導入し、システムイノベーションの提案を行っていきます。

この特集では、計測・制御システムの重要なコアとなる当社の製品群とシステム適用技術を紹介しましたが、安心・安全な環境調和社会のインフラの実現に寄与するための東芝グループの取組みをご理解いただければ幸いです。



森 欣也
MORI Kinya